秋田県（ＴＤＫ）が成年女子９人制を制す

―― バレーボール競技＝鷹巣体育館 ――

第62回国民体育大会（秋田わか杉国体）バレーボール競技成年女子９人制は10月５日から８日までの４日間、鷹巣体育館で開かれ、秋田県チームは全国の強豪チームを破り、国体初優勝を成し遂げました。

国体バレーボール競技は、成年男女６人制・９人制及び少年男女の６種目が実施され、北秋田市では、成年女子９人制が行われました。

成年女子は、全国９ブロックを勝ち抜いた９チームのほか、開催県の秋田県から１チームが参加し、計10チームで優勝を競い、秋田県からは、ＴＤＫ（にかほ市）が出場。

会場となった鷹巣体育館は大会期間中、市民やサポーターらがゲーム開始前から次々と駆けつけ観覧席、通路ともほぼ満員の状態。

競技では、地元秋田県（ＴＤＫ）が決勝で優勝候補の兵庫県（富士通テン）にストレートで勝ち、見事に初優勝を飾りました。

また、大館市が会場の成年男子９人制には、強化指定を受けている本市の鷹巣クラブが出場し、準決勝で沖縄県（中部徳洲会病院）に敗れ、翌日行われた３位決定戦で宮城県（東北リコー）と対戦して勝ち、３位となりました。

見事初優勝したＴＤＫの佐藤亜矢主将は「多くの皆さんのご声援があったからこそ試合に勝てた。自分たちは身長が高いほうではないので、つなげるバレーを心がけた。今日の相手はこれまで一度も勝ったことがない相手だったので、当って砕けろという気持ちで向かっていった。これまでの苦しい練習に耐えてきたからこそ、今日の喜びにめぐり合えたのだと思う」と優勝の喜びを語ってくれました。

また、大会役員で国体開催に尽力された市バレーボール協会の藤原高司会長は「競技会を成功裏に終えることができたが、これも関係者の長年にわたる努力と市民の皆さんの協力のおかげ。９人制バレーは競技人口も多く、職場や地域で親しまれ育ってきた種目。将来、国体競技としては廃止されるとのうわさもあるが、このまま継続してほしいと願っている」と、大会を振り返るとともに、９人制バレーに対する愛着の気持ちを述べていました。

成年女子９人制決勝、対兵庫（富士通）戦、強烈なスパイクをブロックし相手の流れを止めるＴＤＫ選手

▲鷹巣農林高校の生徒が飾った会場内の花のプランター

▲秋田県伊藤まゆみ選手の強烈なスパイクが決まる（10月６日準々決勝、対長野（セイコーエプソン）戦

▲全国植樹祭の記念植樹を行うＴＤＫチーム

▲鷹巣クラブエース高橋直人選手のスパイク（10月７日準決勝、対沖縄県（中部徳洲会病院）戦

▲表彰式前に披露された地元園児によるスギッチダンス

▲味噌付けたんぽに舌鼓を打つ埼玉県チームのみなさん

競技結果

■成年女子９人制

成績	県　名
優勝	秋田県（ＴＤＫ）
２位	兵庫県（富士通）
３位	埼玉県（パイオニア）

■成年男子９人制

成績	県　名
優勝	沖縄県（中部徳洲会病院）
２位	兵庫県（富士通）
３位	秋田県（鷹巣クラブ）

▲優勝した秋田県ＴＤＫの選手のみなさん